

具体になる可能性が高い文に含まれる表現（重要度が低いので速読すべき箇所）

日本語と異なり、英文では情報価値の低い情報は外見での判断が可能

大前提：①現在と過去が混在した文の場合、「過去形」は基本的に「具体」を示す。

②「例えば」を表す表現もちろん具体化表現

文→文：(1)For example (2)For instance

語句→語句：(1)such as (3)like (3), including

パッと見標識 <トップ 11>

- ① 数字
- ② 時代[時]や時系列
- ③ 固有名詞
- ④ “発言”（→専門家の発言・文書の引用を含）
- ⑤ 研究・調査・統計・データ
- ⑥ They[It, He, She] V ... ※仮 S の It は例外
- ⑦ If S'V' ~, S V ...
- ⑧ 文頭 A+名詞 V
- ⑨ some ~ others ...
- ⑩ from A to B
- ⑪ According to ~,

▶以上が主張の裏付けに頻繁に利用されるもので、⑤の中でも「研究や実験によって導き出された結果」は最強の裏付けと考えられている。研究による結果やデータは信憑性が高いため。特に、研究結果は主張の裏付けとなると同時に、研究結果⇔主張となることも知っておこう。

英語圏では論証をできるだけ客観的に行おうとします。私たち日本人は身近な話題を使って主観的に裏付けしようとしませんが、英語圏ではできるだけ客観的に、そして、社会的な視点で裏付けをします。となると、英文ではどのような表現が具体の標識として登場するかというと、上記パッと見標識 11 になるわけです。特に⑤はデータを出すわけですから、最も客観性がありますね。